ともしび
2026.7
第80号
JAUW
一般社団法人
大学女性協会
東京支部会報
- TOMOSHIBI -
Journal of Tokyo Chapter
Japanese Association of University Women
https://www.jauw.org

会員の交流を大切に

支部長　森川 淳子

この度支部長に選任されました森川淳子でございます。2期4年支部長を務めてくださった鷲崎千春さんの後を任されましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

東京支部は、JAUWの当初からの支部ですので、設立80年になります。68年間の社団法人を経て、2012年からの移行法人も3年後には新たな形となります。この移行期を本部の方針に従い、東京支部もさらなる発展ができますよう、努めてまいります。講演会、見学会など会員の交流をはかれるような計画、支部奨学金の授与、支部会報「ともしび」の発行を中心に支部活動をしてまいります。

4月の支部総会では講師としてジャーナリストの金平茂紀氏をお招きし、また6月には環境カウンセラーの崎田裕子氏の講演会を開き、皆さまと共に楽しく学ぶことができました。ご好評の「ともしび」投稿特集、次号のテーマは「ふるさと、そして私」です。東京出身の方も地方出身の方も、わがふるさとへの思い、今の自分との関わりなどぜひご投稿ください。



東京支部総会開催

新たな一歩へ

新緑も香しい2026年4月18日(土)11時より、アイビーホール青学会館にて東京支部総会が開催されました。ホテルを思わせるようなお洒落な会場で、時間通りに定数を満たし、総会が成立しました。

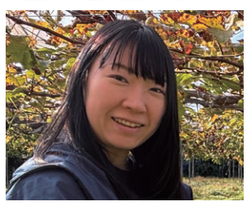
まず、鷲崎千春支部長よりの挨拶。全国セミナーでの支部発表、元スペイン大使、吉川元偉氏の講演会、チャレンジ奨学生の選考、警視庁への見学会、「ともしび」の発行など、この1年間の活動報告がありました。さらに、2期4年間の任期を終えるにあたり、これまでの皆さまの協力に対する感謝とお礼、次期支部長へのご支援のお願いがありました。

続いて長谷川瑞穂会長より、大学女性協会が2012年に一般社団法人になり、あと3年で移行法人が終了するまでに、資産を公益事業に使い切ること。さらに、その後の取り組みに対するご説明がありました。

議事進行もスムーズに議案は承認され、今年度の役員の承認、挨拶をもち総会議事は終了。チャレンジ奨学生、太田冴さんのスピーチの後、懇親会へ。支部総会初参加の3名(左下の写真)の紹介があり、今半の美味しいお弁当をいただきながらの歓談タイム。ルワンダ義肢支援活動への寄附やバザーにも、たくさんのご好意が寄せられ、盛況裏に第二部は終了し、午後の金平茂紀氏講演会(P2参照)へと続きました。

(支部委員　嶋田 美恵子)









支部総会に初めて出席した2025年入会の（左から）久米一世さん、伊藤真理さん、白岩葉子さん

《ともしび》
投稿募集

ふるさと、そして私

ふるさとは名前と同様、自分では選べません。
しかし、人生に与える影響は途轍もなく大きい。
父母、友、初恋、離郷・・・など、あなたのふるさとへの想いをお寄せください。
明日をより素敵にするために!

応募要領

テーマ：「ふるさと、そして私」
原稿タイトル：できればお書きください。(仮題OK)
字数：800字～1000字
記載事項：氏名（ふりがな）
所属支部
住所
連絡先（メールアドレス、固定・携帯電話番号）

締め切り：2026年（令和8年）12月20日
掲載媒体：「ともしび」第81号（2027年３月発行）

宛先：(一社)大学女性協会　東京支部「ともしび」投稿係
〒160-0017
東京都新宿区左門町11-6 パトリシア信濃町テラス101
Email： tokyobranch@jauw.org

※必要事項を記載の上、郵送またはメールでご送付ください。

《メールマガジン》配信のお知らせ

東京支部では、以前からお届けしているメールマガジンのシステムを一新。理事会・本部委員会からのお知らせ、支部主催講演会・見学会、他支部の活動などについて、グーグル・グループのメーリングリストを使って、より早く、より多くの方にお役立ち情報を配信することになりました。

すでに6月17日に『JAUW東京支部メールマガジン2026年度1号』を配信。ご好評をいただいております。

未受信の方は、この機会に、ぜひお申し込み下さい。ご登録にはパソコンだけでなく、スマホやタブレットのメールアドレスも使えます。お手続き方法などは、同封のご案内チラシに、初めての方にも分かりやすく説明されています。ぜひ、ご覧ください。



2026年度 東京支部新入会員

大口 裕美　(跡見学園女子大学)
田中 富士美　(チチェスター大学ジェシエフ情報技術経営大学)

＊敬称略　＊括弧内は出身校

2026年度 東京支部委員会

支部長　森川淳子
副支部長　遠藤理枝　坂上栄美子
書記　鈴木公江　鷲崎千春
会計　嶋田美恵子　宮原千佳子
支部委員　安東桂子　植原映子　太田惠子　菊地康子　嶋田君枝　進士多佳子　宮下摩維子
支部担当理事　遠藤理枝
会計監査　菊池摩耶子　桑折美子

◉水墨画教室

若干名募集中。
初心者大歓迎です。
お試し体験もできます。
・第2金曜日
　午後1時半～3時半
・JAUW事務所 会議室
・講師　日髙絹子(絹紅)会員
・連絡先　森川淳子
TEL(045)583－3430

◉映画クラブ

ご一緒に映画を見て〝映画談義〟を楽しむ、気さくな集いです。ぜひ一度、ご参加ください。
・隔月開催
・お問い合わせ 安東桂子
Email
tokyobranch@jauw.org

お悔やみ申し上げます

三木 妙子 様
　2026年4月15日　ご逝去
時枝 裕子 様
　2026年7月11日　ご逝去

ご寄付、ありがとうございます

遠藤 理枝　太田 惠子　加納 孝代
進士 多佳子　高橋 真理子
宮原 千佳子
　2万2千円
＊敬称略

支部からの連絡

●住所等変更はご連絡ください。
●会費未納の方はお早目にお願いします。
●中野区視覚障害者福祉協会支援のため使用済み切手を事務所までお送りください。

《編集後記》

今期からは新体制ですが「ともしび」編集は同じメンバーで、和気あいあい+ドタバタ+わくわく!で進めております。

JAUWの会合などで、感想や励ましのお言葉をいただくことが増え、とても嬉しく思っております。皆さまの応援が活動力の源です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(編集担当／安東桂子、嶋田美恵子、進士多佳子、鈴木公江)

ともしび 第80号　発行日：2026年7月27日(月)　編集 / 発行：一般社団法人 大学女性協会東京支部
〒160-0017 東京都新宿区左門町11-6 パトリシア信濃町テラス101 Tel：03-3358-2882 Fax：03-3358-2889
Email：tokyobranch@jauw.org　URL：https://www.jauw.org/works_category/tokyo/
制作協力 / 印刷：株式会社 繁松
※「ともしび」掲載内容の転載については事前に事務所までご一報ください。

東京支部ホームページ→
◉検索「JAUW 東京支部」

「ともしび」バックナンバーも掲載

東京支部総会第三部
金平茂紀氏講演会

メディアは誰のために何のためにあるのか

総会第三部は、元TBSニュースキャスターで、ジャーナリストの金平茂紀氏をお迎えし、時代とメディアを語る講演会です。



「私は回遊魚。動いていないと死んでしまうのです。そんなワケで50年間、世界を飛び回り、自分で見たこと聞いたことを皆さまにお伝えしてきました。そんな中で今私が一番強く感じているのは、世界は破壊の時代に突入したということです。私の若い頃は、ベトナム戦争がありました。しかし、今はもっとひどい戦争が、世界のアチコチで起こり、誰もそれを止めることができない。日本も『新たな戦前』といえる状況です。それはSNSの時代でもあります。SNSは、社会を便利にした。しかし、人間を本当に幸せにしたのだろうか？

今度のイラン戦争は、トランプが自ら所有するSNSに、イランを爆撃したと書き込んだのが第一報。それを世界のメディアが追いかけているのです。以前では全く考えられない現象です。SNSには、他のメディアとは比べものにならない三つの絶大な力があります。第一は速報性。トランプの書き込みは、瞬時に世界中で百億回再生されました。第二は拡散力。今度の選挙で高市総理のPR動画は、一億六千万回再生され自民党を圧勝させました。新聞もテレビも雑誌も、とても追いつけない。第三は、刺激の絶対値。『えげつなさ』は、人間の欲望です。えげつないほどバズる。バズればバズるほど良いとされるのは、健康的な社会とはいえません。パワハラ知事の出直し選挙では、罪のない人が追い詰められ、自ら命を絶つ悲惨な事件も起こりました。

さらに憂慮すべきなのは、SNSが人間の有り様を変え、健全な社会を支えるべき公共的な空間を、溶融させつつあるということです。教育、医療、災害、そしてジャーナリズムなど、利己ではなく利他で機能すべきみんなのための公共空間が、溶けるように次第にその意味を失っている」と、現代を看破する言葉が溢れ出ます。

今回のテーマに呼応し、講演の最後では、師と仰ぐ筑紫哲也氏の『news 23』でのラスト映像を紹介。その中で筑紫氏は、病に冒されながらもメディアの三つの役割について「第一は権力に対する監視の役割。第二は少数派であることを恐れないこと。第三は多様な意見を提示し自由な気風を醸成すること」と、静かに語っています。18年前の師の面影にしばし言葉を失う金平氏。「この時と比べ、はたして今のメディアは良くなっているのか？筑紫さんに申し訳ない」と真情を吐露。会場に共感の輪が広がります。

続く質疑応答では、様々な質問やシャープな意見も飛び交い、あっという間に時間終了。司会の「お時間ですから、最後に金平さんからひと言」との無情なアナウンスには「せっかく、これから面白くなるのに‥」と、氏が苦言を呈する一コマもありました。

講演者と聴衆が「もっと語り合いたい！」という気持ちを共有する、意義深い講演会となりました。

（支部委員　安東 桂子）

東京支部奨学生
支部総会でミニスピーチ

困難を抱える人に寄り添える弁護士に

早稲田大学大学院法学研究科
法曹養成専攻2年
太田 冴さん



支部総会議事終了後のひととき、2025年度東京支部奨学生の太田冴さんが、支部の皆さまへのご挨拶を兼ねて今後の抱負について語りました。

「現在、早稲田大学法科大学院にて弁護士を目指し勉学に励んでおります。法律の勉強には、明確な『答え』がありません。具体的な問題に直面したときに、どのような法解釈を用いて、どのような結論を導くべきか。法律の知識だけではなく、人としての良心に基づいた深い思考力が試されているように感じます。

複雑な問題が多い現代社会の中で、困難を抱える人に寄り添える弁護士を目指し、研鑽に努めて参ります」との説得力のあるスピーチに、皆さまから真剣なまなざしが注がれました。

2026年東京支部総会報告

春風の吹く4月18日に東京支部総会をアイビーホール青学会館で開催した。出席者数31名議決権行使書数62名計93名支部規約に基づき会員数164名の5分の1（32）を満たし、総会は成立した。

第1部は長谷川瑞穂会長から東京支部の活動を称え、本部行事への協力に感謝とのご挨拶を頂き議事に入った。

第1号・第2号・第3号議案ともに反対無しで承認され、報告事項1・2も特に異議なしで議事は終了した。多額のご寄付もあり期末残高を次期に繋ぐ事が出来た。次に東京支部奨学生の太田冴さんのスピーチは、13年間の社会経験後、新たに早稲田大学大学院で法的専門知識を備え、法曹として社会問題に取り組んで行きたいとの熱意に一同エールを送った。

第2部懇親会は美味しいお弁当と茶菓、温かいコーヒーを頂きながら和やかな交流の時間となった。第3部の講演会の講師は金平茂紀氏。優れたジャーナリストとしての活動や混迷を極める世界情勢、トランプ大統領と日本との関わり方など独自の視点に基づくお話しに全員興味深く聞き入り有意義な時間となった。

森川支部長と委員13名監査2名は、今年度、頑張ります。

（前書記　太田 恵子）

2025年度東京支部事業報告

4月19日	支部総会　懇親会
	コンサート
	伊能美智子・竹中佐記「伊能美智子と小倉百人一首をうたう」
4月	支部活動についてのアンケート実施
6月～9月	ＪＡＵＷ国内奨学生支部圏募集、選考、本部へ推薦
7月7日	見学会「警視庁本部庁舎」
7月22日	「ともしび」第78号発行
10月18日19日	ＪＡＵＷ全国セミナー発表「てんぷら油で飛行機を飛ばそう！」
	報告書の東京支部ページをアンケート回答者に送付
11月25日	講演会（収益事業委員会と共催）
	講師　吉川元偉「スペインの人と文化」
1月25日	東京支部奨学金授与　太田冴（早稲田大学大学院１年）
3月9日	「ともしび」第79号発行　投稿特集「捨てる？捨てない？断捨離考」
随時	ホームページ更新・メールマガジン登録者に配信
サークル活動	水墨画教室・映画クラブ
寄付活動	中野区視覚障害者福祉協会へ使用済み切手送付

2026年度東京支部事業計画

4月18日	支部総会　懇親会
	講演会　金平茂紀
	「メディアは誰のために、何のためにあるのか」
6月19日	講演会　崎田裕子
	「持続可能な未来は私たちの手で！」
7月	「ともしび」第80号発行
3月	「ともしび」第81号発行
未定	全国セミナー報告書東京支部版を発行

奨学金事業、その他は、2025年度に準ずる。
今後の予定は決まり次第広報する。

2025年度東京支部決算（正味財産増減計算書内訳表）

（2025年4月1日～2026年3月31日）　（単位：円）

科目	実施事業	その他会計			支部計	備考
	小計	事業5 広報・情報	事業6 会員活動	小計		
Ⅰ　一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1)経常収益						
本部会計からの繰入金収入（交付金）		120,000	47,000	167,000	167,000	157口＋10口
支部活動費		250,000	34,000	284,000	284,000	142口
事業収益						
シンポジウム・講演会・講座事業収益			148,270	148,270	148,270	講演会・見学会
支部総会事業収益						
その他の行事参加費			93,000	93,000	93,000	総会時懇親会
受託事業						
補助金収益						
受取寄付金			1,072,650	1,072,650	1,072,650	サークル他
受取利息			6,037	6,037	6,037	
その他収益			31,442	31,442	31,442	セミナー交付金
経常収益計(A)	0	370,000	1,432,399	1,802,399	1,802,399	
(2)経常費用						
事業費						
会議費			245,335	245,335	245,335	総会懇親会、見学会昼食他
会場費			25,000	25,000	25,000	支部総会,講演会
旅費交通費			108,000	108,000	108,000	講師お車代含む
通信運搬費		8,620	76,560	85,180	85,180	切手・ハガキ代
消耗品費①		435	2,611	3,046	3,046	宛名シール他
印刷製本費		269,500		269,500	269,500	「ともしび」78号79号
諸謝金						
研修費						
支払負担金						
支払助成金						
支払寄付金						
支払奨学金			200,000	200,000	200,000	チャレンジ奨学金
諸会費						
図書・資料費						
雑費		4,540	12,864	17,404	17,404	振込手数料他
事務所費						
給与手当		73,000	73,000	146,000	146,000	
光熱水料費		5,000	5,000	10,000	10,000	
消耗品費②		5,000	5,000	10,000	10,000	
経常費用計(B)	0	366,095	753,370	1,119,465	1,119,465	
当期経常増減額(A-B)	0	3,905	679,029	682,934	682,934	
2. 経常外増減の部						
当期一般正味財産増減額(C)=(A-B)				682,934	682,934	
一般正味財産期首残高(D)				2,617,387	2,617,387	
一般正味財産期末残高(C+D)				3,300,321	3,300,321	
Ⅲ　正味財産期末残高(C+D)				3,300,321	3,300,321	

2026年度東京支部予算（正味財産増減計算書内訳表）

（2026年4月1日～2027年3月31日）　（単位：円）

科目	実施事業	その他会計			支部計	備考
	小計	事業5 広報・情報	事業6 会員活動	小計		
Ⅰ　一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1)経常収益						
本部会計からの繰入金収入（交付金）		120,000	41,000	161,000	161,000	155口　入会金6口
支部活動費		250,000	40,000	290,000	290,000	145口
事業収益						
シンポジウム・講演会・講座事業収益			80,000	80,000	80,000	講演会,見学会等参加費
支部総会事業収益						
その他の行事参加費			150,000	150,000	150,000	懇親会3,000円×50人
受託事業						
補助金収益						
受取寄付金			10,000	10,000	10,000	サークル他
受取利息			5,400	5,400	5,400	
その他収益			5,000	5,000	5,000	
経常収益計(A)	0	370,000	331,400	701,400	701,400	
(2)経常費用						
事業費						
会議費			255,000	255,000	255,000	総会懇親会、講演会他
会場費			40,000	40,000	40,000	総会、講演会
旅費交通費			110,000	110,000	110,000	講師お車代含む
通信運搬費		5,000	89,000	94,000	94,000	
消耗品費①		5,000	15,000	20,000	20,000	②以外の消耗品費
印刷製本費		270,000	100,000	370,000	370,000	「ともしび」2回発行、セミナー
諸謝金						
研修費						
支払負担金						
支払助成金						
支払寄付金						
支払奨学金			200,000	200,000	200,000	チャレンジ奨学金
諸会費						
図書・資料費			10,000	10,000	10,000	
雑費		500	2,000	2,500	2,500	
事務所費						
給与手当		70,000	70,000	140,000	140,000	
光熱水料費		5,000	5,000	10,000	10,000	
消耗品費②		5,000	5,000	10,000	10,000	
経常費用計(B)	0	360,500	901,000	1,261,500	1,261,500	
当期経常増減額(A-B)	0	9500	△ 569600	△ 560100	△ 560100	
2. 経常外増減の部						
当期一般正味財産増減額(C)=(A-B)				△ 560100	△ 560100	
一般正味財産期首残高(D)				3,300,321	3,300,321	
一般正味財産期末残高(C+D)				2,740,221	2,740,221	
Ⅲ　正味財産期末残高(C+D)				2,740,221	2,740,221	

資金残高（2026年3月31日現在）　実施事業は2022年度で終了しています。

その他会計

現金	銀行名	預金額
66,939	三菱UFJ銀行	3,233,382

会計
菊地　康子
森川　淳子

厳正に監査いたしました結果、正確に記載されており、間違いのないことを証明いたします。
2026年3月31日
会計監査　早川 恵子 印
会計監査　木村 和子 印

80周年を迎え今後を考える



大学女性協会会長
長谷川 瑞穂

2026年は大学女性協会創立80周年の記念すべき年ですが、天候にも恵まれ、5月17日（日）にKKRホテル東京にて、第15回定時会員総会、全国総会、80周年記念行事を恙なく終えることができました。東京支部の皆様には事前の細かい準備を含め、大変お世話になりました。定時会員総会では、決算報告、新理事、監事、会長が可決、承認されました。新理事、監事16名のうち7名は東京支部所属です。大学女性協会が80年間大切にしてきたものは、GWIによる国際ネットワーク、奨学、奨励事業、一般公開の講演会などの公益性、そして21支部による国内ネットワークです。これらは今後も大切にしていきたいと思います。総会に続くUWAsiaの会は、国際性豊かな発表の他、6か国からの参加者と交流を深めることができ、大変有意義でした。

移行法人終了を2、3年後に控え、その後の大学女性協会の在り方を考える時期ですが、会員の皆様の意向やご意見を伺いながら進めていきたいと思います。移行法人終了後の活動のためにパトリシア募金を続けますので、引き続きのご協力と、新入会員の勧誘をよろしくお願いいたします。

第15回定時会員総会 全国総会に出席して

前支部長　**鷲崎千春**



5月17日（日）、KKRホテル東京にて、第15回定時会員総会が開催されました。出席者79名、議決権行使書提出者236名により総会は成立。長谷川会長から、今年度はUWAsiaの総会も19日、20日と開かれ、6カ国から22名をお迎えするに当たってのこれまでの準備に対するお礼と、お客様には気持ちよく過ごしていただきたいとのご挨拶がありました。また次期開催支部に茨城支部が名乗りをあげてくださったことへの感謝も述べられました。

第1号議案、第2号議案、第3号議案が承認され、各担当理事から事業報告がなされました。2026・2027年度の理事に選任された理事会の皆さまに、今後のご活躍を期待するとともに、一人一人が会員としての自覚のもとに努めなくてはならないと思いました。定時会員総会に先駆けて行われた支部長会については、P5の森川支部長の報告をご覧ください。

午後は、全国総会となり、（一社）大学女性協会80周年記念講演会へと移ります。2026年3月まで東京大学大学院人文社会系研究科教授を務められた歴史学者の加藤陽子氏のご登壇で、演題は「過去を振り返る時、歴史が生まれる―戦後80年の意味と日本の近代」。加藤先生はJAUWのHPもご覧くださって、講演の導入部分で、大学女性協会の設立から藤田たき初代会長、天達文子第3代会長の進歩的な取り組み、この会の活動内容など詳しく述べてくださいました。戦後80年、現在の日本が置かれている状況は厳しいです。なぜ近代日本は戦争につき進んで行ったのか。資料を詳しく分析され、現代の日本で同じ過ちを繰り返さないために、歴史を自分たちの問題として考える姿勢が大事だと話されました。

その講演の中で、南原繁氏の和歌に反省の捉え方が表れているとしてご紹介くださいました。「人間の常識を超え学問を超えておこれり日本世界と戦ふ」教えていただいた和歌が心に残っています。



講演／東京大学大学院名誉教授
人文社会学：加藤 陽子氏



演奏（懇親会）／チェリスト：海野 幹雄氏

素晴らしいご講演のあと、「JAUW創立80周年記念誌」―HERitage 80―を担当してくださった片岡雅子編集委員長から、JAUWの歩みの報告がありました。UWAsiaの総会にご出席の皆さまにも配布され、日本語と英語のバイリンガル表記で沢山の写真がカラーで掲載されています。80周年記念誌をただ配付するだけでなく、会場のみんなでページを繰りながら内容を共有できたことは良かったです。

滞りなく全国総会も終え、いよいよ場所を変えてチェリスト海野幹雄氏をお迎えして懇親会が始まります。海野氏は、貴重なクラシックチェロも携えて来られ、新しいチェロとの音色の違いを聴かせてくださいました。懇親会には本日の講演会講師の加藤陽子氏も、海野氏とご一緒にお残りになりました。各テーブルでは、ホテルのお料理を堪能しながら楽しそうに会話が弾みました。東京支部は微力ながら懇親会を担当させていただき、遠藤副支部長の行き届いた司会で締め括りが出来ましたこと、一同、本当に嬉しく思いました。翌18日のUWAsiaと合同のバスツアーについては、P5をご参照ください。

これまで何度も打ち合わせをして、企画を練り上げてくださった理事会、実行委員会、国際ネットワーク委員会、収益事業委員会、親睦事業委員会、東京支部の皆さまに心から感謝申し上げます。

支部長会に出席して

東京支部長　森川 淳子

定時会員総会に先立ち、5月16日（土）に支部長18人、ほかに理事・監事と委員長2人とでKKRホテル11階丹頂の間で支部長会が開かれた。会長挨拶の後、会計理事から第1号議案についての説明があり、財務理事からは移行法人終了後も今までと同じように支部は残るとの話があった。事前に行われた支部の問題についてのアンケート調査の報告、また2011年からの支部会員数の変化などの資料が配布された後、3人の支部長と理事・監事2人の小グループに分かれ、話し合いは活発に行われた。どこの支部も高齢化、会員数の減少、支部長はじめ役員の引き受け手がいないなど、同じような悩みを抱えているようだ。夜は支部長、理事等とでホテルの12Fで夕食会が開かれ、それぞれ親しく懇談が持たれた。室内の照明を落としており、皇居、丸の内界隈の夜景は素晴らしいものだった。以前の支部長会とは一味違うものであったがより細やかな会であった。支部担当理事の周到な準備には感謝です。



バス旅というよりは東京を遊泳する宇宙船の気分！

建部 靜代

5月18日、総会翌日の研修旅行は、JAUW（藤谷文子収益事業委員長）とUWAsia（大井恭子CIR）の共催で行われた。参加者は56名（会員37名、UWAsiaから19名＝バングラデシュ、ネパール、インド、セネガル、ザンビア）。

9時30分　KKRホテル東京を予定通りにスタートした。車中ではUWAsiaの方々と会員が自然とペアになって着席した。TOKYOの魅力を最大限に楽しめるバス旅だ。車窓風景が瞬時に一枚の絵巻のように流れ、目前にひらけていく面白さがポイント。車中ではバスガイドの説明を大井さんが英語でガイド、穐田さんが同時通訳をする。隣席の会員が補足をするというJAUWならではの国際交流が始まっていた。

バスは平川門（交差点右折）↓竹橋↓代官町通り↓内堀通り↓三宅坂↓国会議事堂前（交差点右折）↓内堀通り↓桜田門（交差点右折）↓霞ヶ関↓虎ノ門↓東京タワー前↓芝公園↓増上寺前↓西新橋↓日比谷↓有楽町↓銀座↓歌舞伎座前↓築地4丁目交差点右折↓新大橋通りと「車窓旅」が続く。ドライバーの瞬時の判断で、交差点の左折、右折が変わって行く。10時30分には浜離宮恩賜庭園に到着した。緑の中に江戸の歴史と東京湾の自然と大都市のビルが見事に共存している。私はこの景観にあらためて感動し大きく息を吸い込んだ。隣を歩いていたネパールの方も「自国では決してみられない景色です」と話しかけてきた。そして熱心に撮影している。

浜離宮恩賜庭園　11時出発↓首都高↓豊洲（見学）↓選手村↓お台場↓有明↓両国↓雷門通りで降車↓浅草寺見学

浅草寺の表参道、250㍍の仲店通りは、皆がはぐれないようにするには最大の難問であった。両脇の店には魅力的なみやげものがあふれているが、全員一丸となって本堂へ直進。本堂に入るときには遠藤さんが参拝の基本形を伝授してくださり、全員しっかりと作法を身につけることができた。

浅草寺、13時出発↓押上げまでバスは一気に走り、ランチ交流会をスカイツリータウンソラマチ30階のフレンチレストランブラッスリーオザミで開催した。ランチ交流会は素直な意見をかわせて楽しく、とても美味しかったと大好評。これまたほぼ全員が「目前にスカイツリーを見てびっくりした。ランチ場所がスカイツリーと思っていた」と、賑やかに感想を語り合った。16時KKRホテルへ無事到着後、解散。

★UWAsia参加者からの感想をまとめると以下に集約された。

①東京に関する良いオリエンテーションになった。

②バスにおける通訳が最高によかった。



2024年度　東京支部奨学生（チャレンジ奨学生）レポート

噴火でできた軽石でセメント不要の結合材！



東京大学大学院工学系研究科
建築学専攻　修士2年
石橋 佑季

2024年度、大学女性協会東京支部の奨学生に採択いただいて以降、東京大学大学院にて研究に取り組んでまいりました。2025年10月には第二子が誕生し、現在は育児を中心としながら、可能な範囲で研究活動を継続しております。

私はこれまでの2年間、セメントに代わる低炭素バインダーに関する研究に取り組んでまいりました。セメント産業は、原料焼成時に多量の二酸化炭素を排出し、世界全体の排出量の約7％を占めるとされており、2050年のカーボンニュートラル実現に向けた技術革新が求められています。その一つとして、ジオポリマーを含むアルカリ活性材料やポゾラン反応性材料が注目されています。これらは廃棄物由来資源を活用でき、従来のセメントと比較して二酸化炭素排出量を大幅に削減できる可能性があることから着目されています。

私はこの背景のもと、2021年の福徳岡ノ場海底火山噴火により大量発生した軽石に着目し、その粉末を建設材料として活用する研究を進めてきました。主として鹿児島県・沖縄県に漂着した軽石の多くは回収後に埋立処分されたのが実情ですが、これを地域資源として再利用し、材料の地域循環に寄与することに意義があると考えています。また、粉末化という比較的簡便な工程のみで材料利用が可能となる点も、二酸化炭素排出量抑制に貢献し得ると考えています。

研究では、軽石を粉砕し、アルカリ活性材料あるいはポゾラン反応性材料として利用する二つの方針から検討を行いました。成分分析の結果、対象軽石はトラカイト質マグマ由来であり、比較的多くのSiおよびAlを含むことが分かりました。これらを活かし、軽石粉末をアルカリ溶液で活性化することで、セメントを用いない結合材として利用する可能性を探っています。

一方で、本研究は社会実装を前提とする側面が強く、研究としての厳密さと実用化との間にあるギャップに悩みながら試行錯誤を重ねています。現在も材料的な課題解決に取り組んでおり、本建築物の施工後には、改めてご報告できればと考えております。

これまでの成果として、『セメント・コンクリート論文集』への査読付き論文投稿および日本建築学会大会での発表を行いました。奨学金によるご支援のおかげで、出産・育児という大きな生活の変化の中でも研究を継続できていることに、心より感謝申し上げます。

2026年度の東京支部奨学生を募集しています。皆様からもお声がけください。

一般社団法人大学女性協会 東京支部奨学生（通称 チャレンジ奨学生）　2026年度募集要項

一般社団法人大学女性協会東京支部は、企業、官公庁などでの就労の後、大学または大学院で勉学・研究中の女性・性自認女性に奨学金を支給する。卒業・修了後は再び就業により広く社会に貢献することを条件とする。

Ⅰ 応募資格
23ケ月以上の就労（アルバイトを除く）の後、会員の在住する都道府県に本部を置く文部科学省の認可する大学の3年次または大学院1年次に在学する女性・性自認女性とする。卒業または修士課程修了まで同大学・大学院に在学することを条件とする。就労以前の学歴は問わない。

Ⅱ 支給額および募集人数
奨学金20万円を1名に1回支給する。返還は求めない。

Ⅲ 応募提出書類
⑴ 一般社団法人大学女性協会東京支部奨学生応募書
1. 所定の様式による
2. 応募理由は、全体で1000字程度
3. 指導教員は、主な履修科目の指導教員であること
⑵ 履歴書・自己紹介書
1. 所定の様式による
⑶ 大学の在学証明書
備考 ⑴⑵は、ホームページからダウンロードし、印字可。
https://www.jauw.org/shibuactivity/tokyo-shougakukin/

Ⅳ 応募方法および締切り
応募者は応募書類を在学大学へ提出する。大学は一括して2026年10月15日（木）（必着）までに大学女性協会東京支部に提出する。

Ⅴ 選考結果通知
本人および大学学長に11月末までに通知する。

Ⅵ 支給
1月予定。別途連絡する。

Ⅶ 奨学生の義務
卒業・修了後2ケ月以内に「勉学・研究の概要と現況」（800～1000字）を大学女性協会東京支部に提出すること。提出のない場合は、奨学金の返還を求めることがある。「勉学・研究の概要と現況」は、支部会報「ともしび」に掲載する。同封会報「ともしび」参照のこと。

【問い合わせ先】
一般社団法人大学女性協会東京支部
支部長　森川淳子
〒160-0017
東京都新宿区左門町11番地6 パトリシア信濃町テラス 101
Tel:03-3358-2882　Fax:03-3358-2889
Email:tokyobranch@jauw.org　URL:https://www.jauw.org

Tomoshibi Gallery



「菊叢飛蝶図（故宮博物院蔵　宋時代　朱紹宗）」　模写作品

日本画
宮原 千佳子
（東京支部）

原本が絵絹に描かれたものですので同じように絹を使い、天然岩絵具で表現しました。絹の裏から彩色を施す裏彩色技法や、染料で染めた和紙で裏打ちするなど、絹ならではの技術を試みたものです。
天然岩絵具を塗り重ねることによる色調の変化は、悠久の時を感じる瞬間です。

◉JAUW会員の作品を紹介するページです。アートの分野は問いません。どうぞご推薦ください。（自薦・他薦どちらも大歓迎です）

tenbyouga

点描画

ハドソン川ののっぺらぼう

宮下 摩維子

CSW70での報告を終えた週末、私には行きたい場所があった。ハドソン川に浮かぶイントレピッド海上航空博物館にある特攻隊の展示である。

昨夏、ショーダンス選手権に出場した。4分間でひとつの物語をダンスで表現する競技だ。選んだテーマは特攻隊。恋と愛国心との間で葛藤する若者と少女の物語である。この作品を踊るため、各地の特攻記念館や、真珠湾に浮かぶ戦艦ミズーリなど様々な地を訪れた。今回、NYでどうしても特攻隊の展示を訪れたかったのは、そんな訳だった。

空母イントレピッドは、4回の特攻攻撃を受け、計99名もの犠牲を出すも決して沈まなかった不沈艦と称賛されており、現在は博物館となっている。館内には特攻隊員の遺書などの常設展示と共に「Kamikaze Experience Show」という映像型体験ショーがある。「イントレピッドの最も暗く、最も輝かしい日を追体験せよ」と記され、空母が初めての特攻攻撃を体験した日、まっすぐに突っ込んでくる日本の特攻機を信じられない思いで見上げる米軍人の視点での映像だ。暗くなった会場を、真っ赤な照明とけたたましい警報、そして煙が演出する。「何度攻撃しても決して沈めることができない母艦に日本人たちは驚いたに違いない。不屈の精神こそがアメリカをアメリカたらしめているのだ！」という強烈なメッセージを発する「ショー」であった。

拭えない違和感の正体はなんだろうか。そう考えたとき、「ショー」の登場人物はのっぺらぼうだからだと思った。戦艦ミズーリでは、甲板に投げ出された特攻隊員の亡骸を、米軍兵たちは一晩寝ずに縫った手作りの日章旗で包み、弔ったという。「敵国でも、個人を見れば誰かの大切な父であり息子だから」と語った現地ガイドの言葉のとおり、そこには相手の「顔」が見える関係性がある。国家の政策を考えるとき、世界の紛争を考えるとき、のっぺらぼうではない、相手の顔を見ようとしないといけないのではないか。そのことが平和への第一歩であって、国際交流は相手の顔を知る試みなのだろう。

ハドソン川の青空を見ながら、そんなことを考えた日曜日であった。

〈点描画〉は会員同士の気ままなチャットルームです
暮らしの中で感じたこと・出逢ったこと…を、ご投稿ください
送付先：tokyobranch@jauw.org
件　名：点描画

自身で道を拓いてきた女性たちにエールを送る Yell

エールⅢ

消えゆく音の響きの美学

琵琶奏者　坂田 美子 さん

琵琶奏者として、国内外で多彩に活躍する坂田美子さんを、首都郊外の閑静な住宅街にお訪ねしました。



何か日本的なものを！

「両親は、私が物心ついたときからずっと、趣味で三味線を習っていました。それで、この子にも何か日本的なものを習わせたいと考え、たまたま、近所に琵琶の師匠が住んでいることを聞きつけてきたのです。

そのとき私は13歳。琵琶を聞いたことも見たこともなかったので、何の先入観もなく、ピアノやバイオリンのように、普通に自分もお稽古事を始めるのだと思っていました」

自分の想いで世界を創る！

「三味線を聞いて育ったので、琵琶の音色にもスンナリなじめました。でも、琵琶のお稽古が本当に好きになったのは、語りを習うようになってからです。物語に自分の想いを込めて語ることで、自分だけの世界が創れることがたまらなく面白かった」

自由さが琵琶の魅力

「琵琶は、語りと音楽が一体となっていることが魅力。楽器としての琵琶は、その効果を最大に引き出すためにあります。ですから決まった楽譜というものがなく、そのときの語りへの想いに応じて、自分で自由に音の強弱も長さも決めることができます。ですから演奏する度に曲想が変わり、飽きるということがありません。これが私が作った楽譜です。洋楽のように強弱マークも、何分の何拍子という表示もないでしょう」と、手づくりの楽譜を見せる坂田さん。まるで、手塩にかけた我が子を自慢する母のようです。

琵琶の神髄は消え際の音の響きと、その余韻

「琵琶の神髄は、消えゆくまでの音の変化です。音を発してから消えるまでの、ほんのわずかな時間に、こうして左手で弦の上部を操作することで、音の響きに変化を付けることができます。これを〝さわり〟といいますが、完全に消えるまでの音の余韻が空間の隅々にまで広がり、人々を物語の世界に誘います。

私自身も〝さわり〟が大好きですが、日本の方は、本当にこの響きがお好きですね」と、琵琶を軽く弾き流しながら、楽しそうに語ります。

確かに、宇宙を内包するような幻想的な琵琶の響きには、風に散る桜を愛で、滅び行く平家の人々に感情移入する日本人の感性に、無条件に染み入る怪しい力があるようです。

ある日　恩師のために出かけたら・・・

「当時、プロを目指す伝統楽器奏者のためのNHK邦楽技能者育成会というのがあり、私はその29期卒業生で、夫（尺八奏者の坂田梁山氏）は30期生です。私の講座の最終日に、師匠（半田淳子氏）の公演会のチラシを配るために、新入生の教室に行ったのが出逢い。『琵琶の公演は珍しいから聴きに行きたい』と、彼が話しかけてきたのです。（微笑み）

同じ伝統楽器といっても、尺八と琵琶では楽器としてのフィールドが全く異なります。時々は合奏したり批評し合ったりもありますが、通常は互いに干渉せず独自に活動しています。ただ、音楽家というのは普通の会社員の方達とは、生活スタイルが違います。それを理解し合えるのはいいですね」と、控えめなお言葉の中にも〝理想の夫婦像〟がうかがわれます。

琵琶の普及が私の使命

「以前は、琵琶は怖いとか暗いとか先入観をもっている方もいて、ともかく一度聞いてみて！と言っていたのですが、今はソレ（先入観などの知識）さえない若い人が多いのです。これは危機でもありチャンスでもあります。これからの私の使命は、琵琶の普及と自らに課しています。

まずは、琵琶をもっと人々にとって身近な存在にしたいと考えています。ギターを習いに行く人はあまりいませんね。それと同じように、琵琶もご家庭で気軽に独学できるよう、練習用の動画を配信したり、先程お見せした楽譜を市販したりしています。公演とミニ講座をジョイントしたイベントを開催し、お望みの方には、レンタル用に特別に作ったこの琵琶を、その場で弾いてもらったりもしています。

明日は神津善行先生のグループとのアンサンブルがあります。洋楽器との共演には、自分だけでは創れないものが創れる素晴らしさがあり、若い頃から積極的に取り組んできました。でも最近は、琵琶を知らない人に琵琶の音を知ってもらう絶好のチャンス!!という意味合いが強くなりました」

願いを託された一枚のCD



「長いことファンでいてくださる方が、資金面もお引き受けになり、最近、このCDが発売されました（下段のカコミ記事をご覧ください）。

皆さまに一番親しまれ琵琶の代名詞ともいえる『平家物語』の名場面を語るもので、尺八の音を重ねた曲もあります。本当に有り難いことに、その方は、このCDの売り上げは、全て琵琶の普及活動に使ってくださいとおっしゃっているので、責任の重さをひしひしと感じています。（‥と、自らに問いかけるような、しばしの沈黙の後に）

私には創作曲も多くありますし、演奏家としてデビューして以来、古典曲、現代曲にこだわらずに活動してきました。

琵琶の普及に心血を注ぐ覚悟ではありますが、やはり一方では『私はコレ』という独自の世界を追求し続けたい!!」と、ひと言ひと言、噛みしめるように語ります。



実は、筆者は24年前に、若手琵琶奏者として注目を浴びる若き日の坂田さんに、インタビューさせていただいたことがあります。ほぼ四半世紀を経て、今は、琵琶の普及という重責を担う立場にありながらも、自身の琵琶音楽の構築に、あのときと変わらぬ情熱を注ぐ坂田美子さん。

大島紬を楚々と着こなすそのお姿には〝いい歳の重ね方をした人〟だけに許されるオーラが、しっかりと宿っていました。

（インタビュアー・安東 桂子）

PROFILE　**坂田 美子**（さかたよしこ）

中学より10年間、琵琶を半田淳子に師事。以降、観世流謡曲を浅見重好に、講談を神田松鯉に学ぶ。語りと器楽の両面を併せ持つ琵琶音楽の可能性に惹かれ、古典曲、現代曲に拘らない演奏活動を国内外で展開。琵琶弾き語りのための創作曲多数。近年は語り手としての活動も増え、冨田勲作曲「源氏物語幻想交響絵巻」では、演奏の他に語り部役も担当。「声に出して楽しむ平家物語講座」を大人の休日倶楽部他で開催中。CDは「琵琶うたものがたり」「壇ノ浦～安徳天皇入水」「諸行無常」など。NHKTV「名曲アルバム」では自作曲「壇ノ浦」が取り上げられ、「新日本紀行ふたたび」のテーマ曲では作詞と歌を担当。第40回琵琶楽コンクール第一位、文部科学大臣賞を受賞。桐朋学園芸術短期大学非常勤講師。

※坂田美子氏はJAUW会員ではありません。

『諸行無常』



琵琶で語る平家物語

坂田 美子

このCDの制作にあたって、氏田彰子さんから多大なるご支援と励ましをいただきました。琵琶の音が滅んでしまわないようにという氏田さんの思いに背中を押され、精一杯の思いを込めて演奏いたしました。

このCDの売上金は今後の琵琶普及のために使わせていただきます。

一人でも多くの方にこの活動にご賛同いただけましたら幸いです。

坂田美子琵琶普及プロジェクト
https://sites.google.com/view/biwaproject/